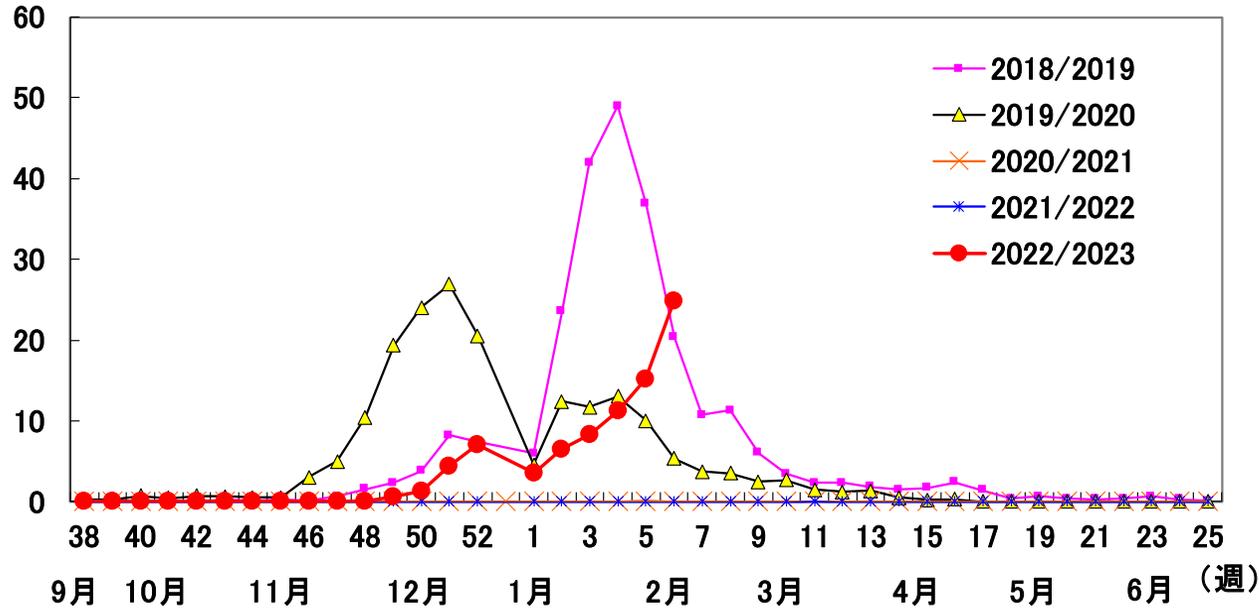


# インフルエンザの発生状況(富山県)

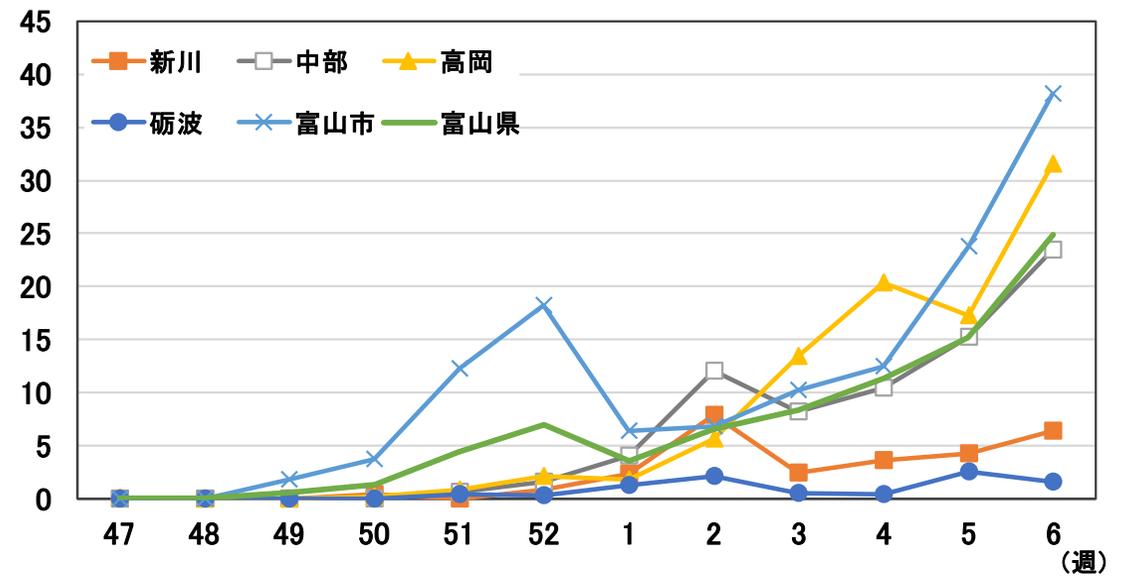
【第6週(2023/2/6~12) 感染症発生動向調査速報値 (2023/2/15時点)】

(人/定点)

図1. 5シーズンの患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2022/2023)



- 今週の報告数は**24.85**人/定点となり、先週 (15.19人/定点) から急増した。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、砺波管内でやや減少したものの、他の全ての管内で増加した。富山市、高岡、中部管内の増加が著しく、富山市 (38.13人/定点)、高岡 (31.54人/定点) では警報発令の基準である30人/定点を超えた。

図3. 年代別割合(富山県、第6週)

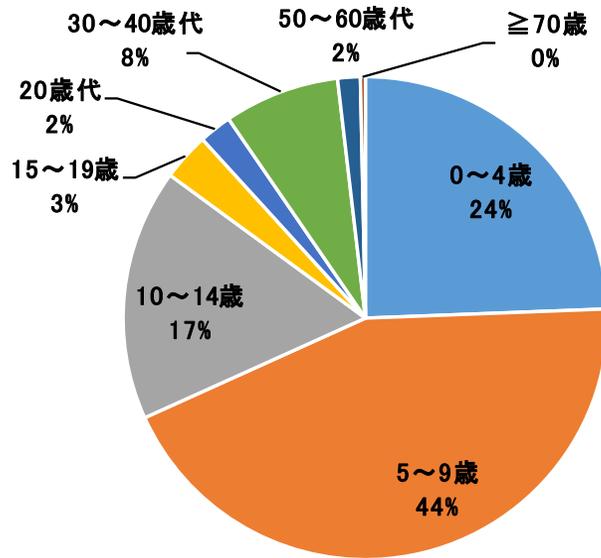
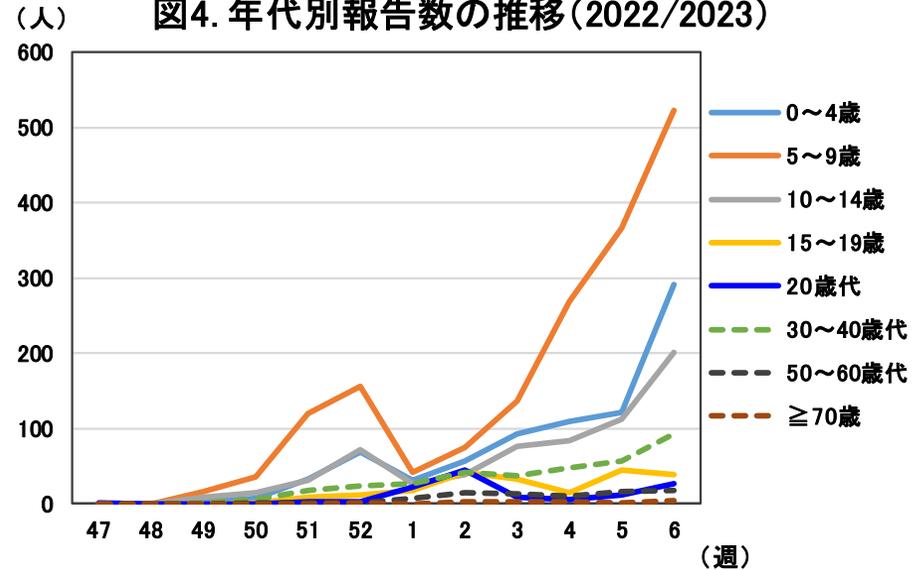


図4. 年代別報告数の推移(2022/2023)



- 富山県の第6週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が85%を占めた。最も多いのは5～9歳（44%）であるが、0～4歳が24%を占め、先週（17%）から増加した。
- 年代別報告数の推移（図4）では、0～4歳（水色）、5～9歳（橙色）、10～14歳（灰色）の報告数が顕著に増加した。小児の親世代となる30～40歳代（緑点線）においても増加傾向が認められた。一方、50歳代以上は低値で推移した。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は第6週に幼稚園2施設、小学校22施設、中学校1施設で報告されており、主に小学校での感染が拡大していると考えられる。

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第5週)

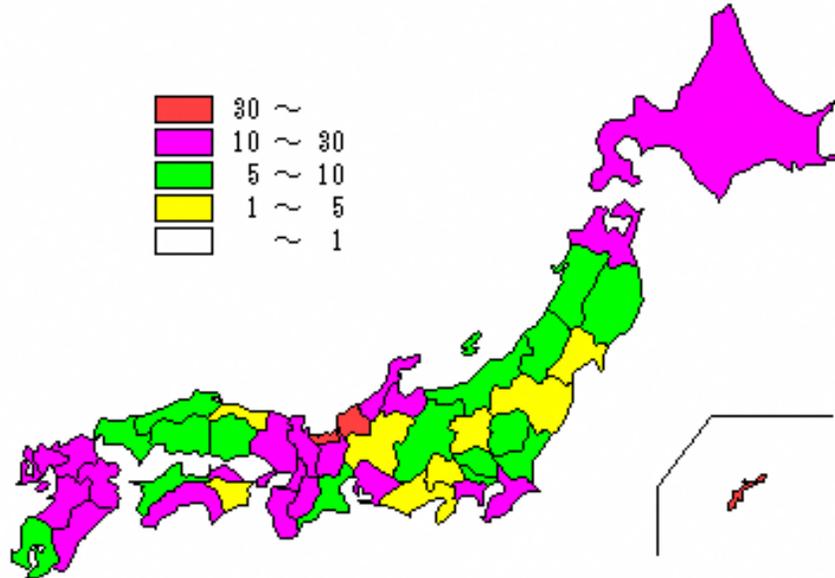
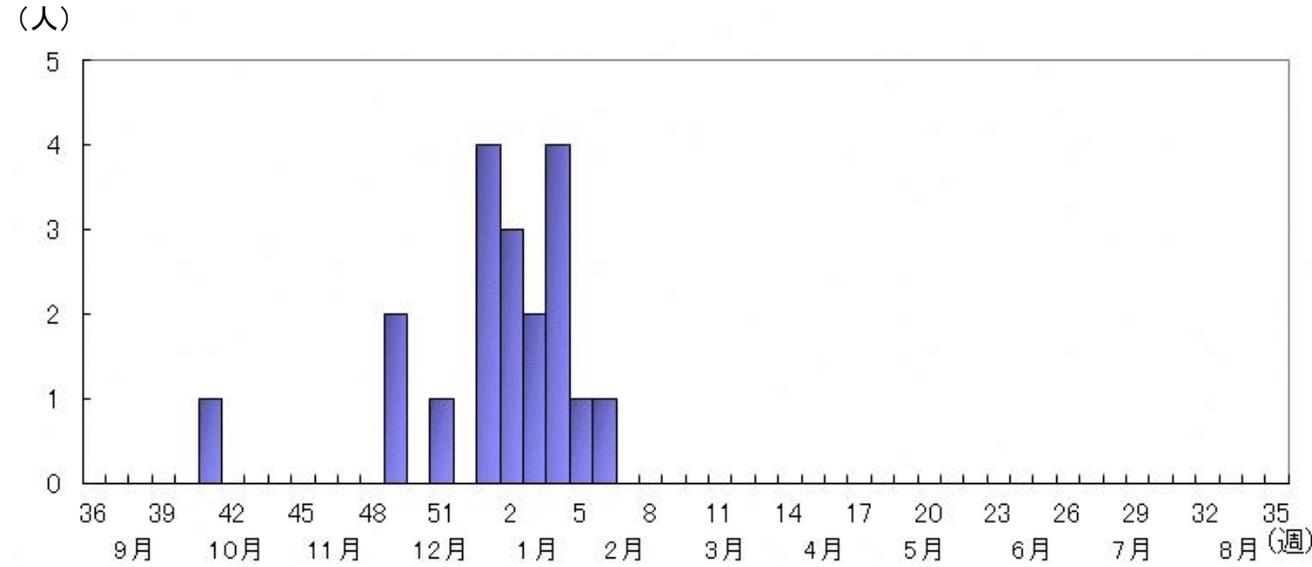


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第6週)



- 全国では第5週に12.66人/定点となり、第4週（10.36）から増加した。都道府県別（図5）では、23道府県で10人/定点を超えた。また、福井県と沖縄県では警報発令の基準である30人/定点を超えた。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第6週に1例の幼児例が報告された。